

2017年7月9日 ④ シリーズ「福音の力」 | Series “Power of the Gospel” 非常識な愛 | illogical Love

教会の中で、ほかのクリスチャンから不当な扱いを受けて傷つくことがあります。地上の教会は完璧ではないからです。ローマの教会でも、律法を重視するユダヤ人クリスチャンと、自由を重視するローマ人クリスチャンが互いにさばきあい、傷つけあっていました。それぞれに自分を正当化し、相手を攻撃していました。そんな教会に対して、パウロは何と言っているでしょう。

I. 聖書を読んでみよう ローマ Romans 12:9-21

II. 話し合ってみよう Discussion Question

- 1) **12:9** で、人に不当に扱われることがあるとき、なかなか赦すことができないとき、そんなときでも、あえて愛するようにと語っています。しかも、その愛は、形だけではない、偽りのない愛です。心からの愛ということです。 **12:15** には、「喜ぶものとともに喜び、泣くものとともになく」という行動には、特に心が必要です。そんな心からの愛について話し合ってみましょう。
- 2) **12:13** を見ると、愛には具体的な行動が必要なこともあります。クリスチャンのニーズに具体的にこたえたり、もてなすことは同時に犠牲も伴います。どんな犠牲が伴っていたのか考えてみましょう。わたしたちが人間関係に悩むとき、あえてこのような、積極的な関わりをするというのは、どう難しいでしょうか、どうすればそれができるでしょうか。
- 3) **12:9-10, 15-16** には、「思う」という言葉がよく出てきます。難しい人間関係の中で、それにとらわれないで、福音に根差した見方、思い方、考え方を意識的にしていくことの大切さが、ここからわかります。難しい人間関係の中で、私たちはどういう見方をするべきでしょうか。なぜ、そういう見方をすることが大事なのだと思いますか。キリストの十字架の救いをヒントに考えてみましょう。
- 4) **12:19-21** を読むと、自分を迫害する「敵」に対しても、積極的に愛をそぐことの大切さがわかります。不当な扱いを受けるとき、正義の鉄槌という名の復讐をしたくなります。そうしなくてはいけないように感じます。でも、なぜ聖書はそれをしてはいけないと言っているのでしょうか。そこから何を教えられますか。
- 5) 今回の学びで、一番心に残ったことはなんでしたか。